

講義名	対1)教養特講 (プレゼンテーション技法入門)			授業形態	
担当教員	松岡 陽子	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要
 本授業は、受講生のみなさん自身がプレゼンテーションを準備、実践していきながら、その基本的な諸技法を段階的に習得していけるようデザインされている。したがって、みなさんの実践への取り組みそのものが授業の成否を大きく左右する。個人での実践もグループ単位での実践も設けたが、いずれも仲間との積極的協働を通じて、より創造的で実りある学習が可能になるだろう。プレゼンテーションはそもそもコミュニケーションの一形態であるのだから、他者との協働を楽しみつつ、まずは入門編としてプレゼンテーションに慣れ親しんでほしい。しかしそうした身につけたプレゼンテーションの基本的な技法や態度は、これからの大学の学習に様々な形で活かせるはずである。

到達目標
 1. プレゼンテーションとはどのような行為か、その目的（意義）および方法を理解できるようになる。
 2. プレゼンテーションの基本的な諸技法を理解できるようになる。
 3. 課題（テーマ）に沿って、基本的技法を用いた効果的なプレゼンテーションを構想、実践できるようになる。

提出課題
 1. 実践：作成資料（スライド(紙)、個別）、自己評価・振り返り（小レポート）、相互評価・講評
 2. 実践：作成資料（スライド(PDFファイル)）、グループごと、振り返り（小レポート）、相互評価・講評
 3. 実践：期末課題（オンデマンド動画）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
 提出課題1に対しては、評価表を用いた個別の評価・講評を各自にフィードバックする。
 提出課題2に対しては、評価表を用いたグループごとの評価・講評を全体にフィードバックする。併せて、受講生同士による相互評価結果もフィードバックする。

評価の基準
 以下の配分による総合評価を行い、総計60点以上を「合格」とする。ただし総計60点以上であっても、「5回以上欠席した場合」もしくは「以下1.から4.のうちいずれか1つでも0点であった場合」は原則として「不合格」とする。
 1. 実践 の作成資料（スライド）、自己評価・振り返り（小レポート）：計25点（％）
 2. 実践 の振り返り（小レポート）：25点（％）
 3. 期末課題（オンデマンド動画）：35点（％）
 4. 実践 における発表・評価活動への参加度（平常点）、相互評価（提出物）：計15点（％）

履修にあたっての注意・助言他
 特になし。

教科書
 .使用しない。 .

--	--	--	--	--	--

参考図書
 .授業中に適宜、紹介する予定。 .

--	--	--	--	--	--

その他
 授業中に適宜、プリント・電子ファイル・動画資料等の配布、共有、紹介などを行う予定。

授業計画
 1. オリエンテーション：本授業・学修の進め方、成績評価の方法、等
 2. インタロクアクション：プレゼンテーションとは？（「何」を「どのように」伝えるか）
 3. グループワークに向けて：アイスブレイキング、自己PR（プレゼン）をやってみる
 4. プレゼンテーション実践のテーマを抽出
 5. (効果的な)プレゼンテーションとは？：TEDトークの批評的視聴とプレゼン技法の要件抽出
 6. (効果的な)プレゼンテーションの技法と実践（意見を述べる）：解説（サウンドタッチ構成）
 7. プレゼンテーションの技法と実践（意見を述べる）：準備（読み原稿）
 8. プレゼンテーションの技法と実践（意見を述べる）：実践前半（グループ内個人発表、相互・自己評価）
 9. プレゼンテーションの技法と実践（意見を述べる）：実践後半、実践の振り返り
 10. プレゼンテーションの技法と実践（説明する）：解説（アウトライン、図解プロット）
 11. プレゼンテーションの技法と実践（説明する）：準備（質疑応答）
 12. プレゼンテーションの技法と実践（説明する）：実践前半（グループ発表・質疑応答、相互・自己評価）
 13. プレゼンテーションの技法と実践（説明する）：実践後半、相互評価に基づく優秀グループの選出、実践の振り返り
 14. プレゼンテーションの技法と実践（説明する）：解説（オンデマンド動画作成＝期末課題について）
 15. まとめ（包括・課題）
 期末課題に関する（再）確認

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○ウ：ディスカッション、ディベート	○エ：グループワーク
○オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 予習として、
 プレゼンテーション実践（個人発表）および（グループ発表）の準備：読み原稿作成やリハーサルを含む
 復習として、
 実践 の振り返り（小レポート作成）
 期末課題（動画作成）
 等の準備学修に、週あたり平均4時間程度以上を要する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 この科目の修得を通じて、全学共通のディプロマポリシーである、次の力を身につけることができる。
 知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材
 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる
 (情報処理力)
 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる (情報分析力)
 現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる (課題発見力)
 さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる (構想力)

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
 受講生のプレゼン実践に関する取り組みそのものが骨子となるという意味で、本授業は本質的に双方向型である。
 また技術的にも、動画、オンラインアンケート、クリッカー、電子ファイル共有システムといったICTを積極的に活用することにより、受講生の意見やアイデアを授業に直接反映させるとともに、授業内外での学習の促進や効率化を図る。

実務経験の有無及び活用
 なし。

備考
 特になし。